

第2回 大和高田市地域公共交通活性化協議会 会議録

日時	平成24年01月27日（金）午後2時～午後3時30分
開催場所	大和高田市役所 4階合同委員会室
出席者	<p>松田秀雄 大和高田市副市長</p> <p>出席 増田委員、日下委員、布川委員、西本委員、岩橋委員、刀谷委員代理、前田委員、吉田委員代理、佃委員、小泉委員、千葉委員代理、竹林委員代理、中澤委員、生田委員代理、伊東委員</p>
会議概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶 松田秀雄 大和高田市副市長</p> <p>3. 議事</p> <p>（1）コミュニティバス「きぼう号」の再編に向けたスケジュール 事務局より（資料1について）説明</p> <p>●発言の確認</p> <p>&gt;特に意見はなし</p> <p>（2）コミュニティバス「きぼう号」の現状把握 事務局より（資料2について）説明</p> <p>（3）コミュニティバス「きぼう号」の課題 事務局より（資料3について）説明</p> <p>&gt;資料2、3について意見の確認</p> <p>発言者1（奈良交通）</p> <p>: 大和高田市マップの訂正をお願いしたい。近鉄南大阪線の尺土駅の駅前に乗り入れる形で地図が記載されているが、実際は国道沿いに「尺土駅」のバス停がある。現状では、尺土駅の駅前広場が整備されていないので、駅前へ乗り入れはできていない。乗継拠点として今後検討に誤解を与える可能性があるため、説明させていただく。</p> <p>事務局 : 地図を訂正させていただく。申し訳ない。</p> <p>発言者2（奈良県 土木部 地域デザイン推進課）</p> <p>: 冒頭の説明で、今回の協議会には途中結果の報告として約400世帯のデータで集計すると説明があった。最終の650世帯分の集計結果がまとまるのはいつごろか。</p> <p>事務局 : 今回は時間の関係もあり、途中段階で協議会資料としてまとめた。本日の協議会は、住民アンケート結果を途中経過として、方針や再編イメージを検討した。今回のアンケートは、回答者の母数が多いため、約200世帯分の集計を追加しても、</p>

きぼう号の方向性が大きく変わることはないと考えている。

**発言者 2 (奈良県 土木部 地域デザイン推進課)**

: クロス集計を行っているが、今後の分析の方針として、年齢別や免許の有無（自動車の運転の可否）などのクロス集計も考えているか。

**事務局** : 今回は、通勤・通学、通院、買い物、その他の4つの目的で行き先や交通手段を行った。今後は、指摘のように、年齢や免許証の有無、移動時間帯などにおいても集計を進めていく。

**発言者 3 : (タクシー協会)**

アンケートの中に記載いただいている自由意見はどのように扱うのか。

**事務局** : 住民が記入した意見をカテゴリーに振り分けて対応する。(例えば、運賃、本数、ルートなどとカテゴリー分けをする)カテゴリーに分類後、それぞれの数を計測することで意見数を把握する予定である。貴重な意見を無駄にしないよう努める。

**(4) コミュニティバス「きぼう号」の見直し方針 (案)**

事務局より (資料4について) 説明

**(5) コミュニティバス「きぼう号」の路線再編に向けた検討**

事務局より (資料5について) 説明

**>資料4について意見の確認**

**発言者 1 (奈良交通)**

: 資料 P32 の中の基本方針に乗継拠点の整備とある。この乗継拠点はどのような施設を考えているのかをお教えいただきたい。大和高田駅や JR 高田駅などを想定しているのか。

**事務局** : 中心市街地内の主要地点、当然鉄道駅、医療施設、公共施設などを想定している。後はアンケートなどから利用者の多い施設を検討する予定である。

**発言者 1 (奈良交通)**

: 当社のバスでは、中心市街地の施設の中で経由地になっていない施設もある。当社のバスのルートを変更することも想定しているのか、それともあくまでルートは現状維持としてその中で施設を検討するのか。大型バスを用いている路線も

	<p>多く、大和高田市の中心部は幅員が狭いため、ルートの変更が困難なことも予想される。</p> <p><b>事務局</b> : 現状のルートの範囲で乗継拠点の検討を進めるように考えている。現段階では、奈良交通のバスのルートを変更することは考えていない。</p> <p><b>発言者 2 (高田土木事務所)</b></p> <p>: 中心市街地の周遊性を高めるとあり、資料 P35 にイメージが掲載されており、その図面は中心市街地内をループするような路線となっている。このイメージ図はいくつかの施設を結ぶという解釈でよいのか。</p> <p><b>事務局</b> : 乗継拠点として検討すべき施設の中には当然市役所や市立病院などもある。高齢者の動きとして医者に行き、その後買い物をして帰宅するという動きが多いと予想される。大和高田市の中心部には医療施設や商業施設が多いため、中心市街地内の施設を結ぶ移動手段があれば移動が容易で、更には中心市街地の施設の来街者の増加が期待できる。</p> <p><b>発言者 2 (高田土木事務所)</b></p> <p>: ご指摘の内容は承知した。乗継拠点が必ずしも中心市街地の内側である必要はないが、大和高田市の中心市街地の道路の幅員から判断するとバスの取り回しなどが厳しく、周遊性が確保しにくいことが予想される。アンケートより利用者のニーズを把握しながら、検討を進めていただきたい。</p> <p><b>事務局</b> : 貴重なご意見を賜った、反映させていただきたいと思う。</p> <p><b>発言者 3 (奈良県庁 道路環境課)</b></p> <p>: 先日行ったアンケートは、移動手段毎に行き先や外出時間などを聞いているため、実際の移動ニーズと現行の公共交通によるサービス提供の乖離部分の把握や、単に目的地を結んだバスを運行する提案に留まらず、ニーズを基に時刻表を設定するなど、工夫していただきたい。</p> <p><b>事務局</b> : 本日示した再編案には、時刻案を掲載していない。当然、利用者のニーズを把握して、ダイヤやルートの検討を進める。また、ダイヤの検討時には接続する駅の優等電車との接続も加味しなければならないと考えている。</p> <p><b>発言者 3 (奈良県庁 道路環境課)</b></p> <p>: 今の説明に関連して、当面は運行効率化を目指すことでいだろう。ただ、将来的な目標も設定をしておく必要がある。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「きぼう号」を再編したことにより、外出の際の利用手段が変わったか、バスで通院の割合が増加したなど事業の評価手法として設定する必要がある。また、利用者のニーズと再編後の「きぼう号」サービス提供との乖離を今後は把握する必要がある。こうした評価を継続的に行うことで、より使いやすい公共交通になると考える。

**事務局** : 貴重なご意見を賜った、反映させていただきたいと思う。

#### >資料5について意見の確認

##### 発言者4 (奈良交通)

: 当社がきぼう号を運行するに当たり、懸念材料を紹介させていただきたく。路線長が長く、所要時間が1時間半から2時間程度に及ぶため、遅延が免れない。例えば、路線の前半で遅れが発生した場合、遅れが取り戻せず後半の運行まで影響を来し、利用者に迷惑をかけている。1つの運行の路線長を長く設定をすると、必然的に遅延の問題が懸念される。定時性の確保という面も、考えなければならない課題である。

**事務局** : 貴重なご意見を賜った、反映させていただきたいと思う。

##### 発言者5 (タクシー協会)

: 見直しの方針や再編イメージについては、資料に示して有るもので良いだろう。今後は、具体の再編イメージを調査結果を参考に肉付けしていただきたい。先ほども意見をしたが、自由意見欄を見ると意図としていないものも含まれるが、中にはかなり踏み込んだ貴重な意見も散見される。

見直し方針の中に、運行本数増加のためなどと記載されているが、自由意見欄からも読み取れることを是非反映いただきたい。自由意見のカテゴリー分けも重要な要素と思われるが、可能な限り住民意見を吸い上げる方向で検討いただきたい。

**事務局** : 貴重なご意見を賜った、対応させていただきたく。現在は、アンケートの意見を列挙しただけであるが、今後は分析し見直し案に反映させる。

##### 発言者6 (奈良県 土木部 地域デザイン推進課)

: 未だイメージ段階であるが、現在のきぼう号の路線を分割するという方向性は、承知した。

2つあり、1つは意見で、課題や方針の中で「きぼう号の」

運行補助を今以上増加させないとある。運行補助費を増加させない策として運行経費を抑えるというのも有るが、運賃収入を上げるという点にも着目できるかと考えられる。アンケートのクロス集計の中で、高齢者が運賃の支払額意思額を聞きながら、高齢者からも適切な運賃を頂くこともロジックとしては必要だろう。

もう1つは質問で、再編イメージの中で、バスだけでなくジャンボタクシーを用いた運行なども考えられるのか。

**事務局** : 運賃政策は、路線の改変の際には大きなウエイトを占める。現在でも、県にも運賃の面で補助頂いている部分が多い。「きぼう号」はご承知のように、福祉的な路線の意味合いが強いため、現在の形態を維持していく必要がある。しかし現段階では、事務局としては市の福祉部門との調整もあるため運賃の話には至っていない。委員から運賃収入についての意見があったことは市長などへ報告するが、現段階は利用者から運賃収入を期待するには至らず、運行サービスの工夫で運行効率化を目指すという意味合いが強いと予想される。当然、サービスを上げる上で必要であれば、運賃収入を頂くという案を策定しなくてはならないが、優先順位は低いと承知いただきたい。

**発言者6（奈良県 土木部 地域デザイン推進課）**

: 運賃の話は承知した。もう1つ、基本方針の中で、“まちづくりに寄与する運行サービス”施設と連携したサービスの提供とあるが、大和高田市としてまちづくりの関わりとして、公共交通の検討と別途（場合によっては平行しながら）検討を頂きたいと思う。

**事務局** : 魅力のある地域として集客性を上げながら、「きぼう号」を利用いただきたいと考えるし、商店街を含めた市の商業の全体の底上げを図りたい。提案した施設と連携したサービスの提供には、施設や商店街の協力が必要不可欠であるため、今後、協力体制を検討する。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、第2回大和高田市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。